

講演会 & ライブ な日々⑨

古川 秀明

宮城県アドベンチャークラブ

アドベンチャークラブというのは「NPO石巻広域ソーシャルスキルトレーニングの会」の愛称。

2003年から宮城県石巻地域で、公共施設や野外活動を中心に、発達障害や不登校などいろいろな生きにくさを持つ子どもたちや青年たちと土日の余暇を楽しく過ごす活動を続けている。

ソーシャルスキルをトレーニングするのだが、そもそもソーシャルスキルとはなんだろう……。

アドベンチャークラブの櫻井育子代表は、自分と他人とがうまくやっていくコツだと定義している。

アドベンチャークラブは「共感」「尊重」「自己決定」の三本柱で、コミュニケーションが苦手、問題行動が多いと言われる子どもたちとともに集団での活動を続けている。

自分の好きな事が認められ、楽しく生きることができる。それが自然に、当たり前前にできるような居場所をつくること。それをひたすら地味に続けているのがアドベンチャークラブという小さな団体だ。

櫻井代表は「発達はずっくりでも生きている限り続くもの。障害があってもなくても、自分らしく生きるってことを考え続け、提案していきたいと思う」と語る。

今回はアドベンチャークラブに所属しているメンバーの保護者の皆さんとお話することができた。

あるお母さんは、自分の子どもは重度の自閉症で、どこの団体でも参加を断られて、ここも無理だろうと見学したところ、その場で入会申込書を渡され感動したと話しておられた。

障害の種類や重さに関わらず、広く活動を続けるこのアドベンチャークラブに参加する人が増えて行った。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災の時に、多くのメンバーが被災し、やむなく辞めていかれた方も少なからずおられたようだ。

櫻井代表から講演会&ライブの依頼を頂いて、是非やらせていただきたいと思った。

もともと知的障害者施設に勤めていた私は、櫻井代表に共感するところが多く、やりがいも感じた。

ライブをやるには楽器や多くの機材を片道10時間近くかけて車で運ばなければならぬし、演奏者の宿泊場所の確保も必要だ。

それらのことは、アドベンチャークラブのメンバーが全て解決してくれた。

機材はライブハウスを運営しているメンバーの家族が全部揃えてくださり、運搬やセッティングも忙しい仕事を調整して頂き、手伝ってもらった。

講演とライブは盛況のうちに終わり、うれしい感想をいただき、CDや本もたくさん買っていただいた。

私も満足だったが、一番最後にメンバーの楽器演奏と歌が披露された。

障害を抱えながら、リズムや音程をキープするのはなかなか難しい。
それを多くのボランティアスタッフが年単位の時間をかけて粘り強く指導し、
発表することとなった。

演奏能力や歌唱力を競う大会であれば、間違いなく予選落ちだろう。
しかし、一生懸命演奏するメンバーにそんな邪心はかけらもなかった。

ただひたすら楽しそうに、笑顔で演奏してくれた。

その姿に、音楽や歌の本質を見せてもらえたように思った。

リズム、音程、ハーモニー、どれも大切だけれど、一番大切なのはやはり「こころ」なのだ。

メンバーの歌を聴かせてもらって、どこかこざかしい自分の歌を強く恥じた。

メンバーとそこご家族、スタッフのみなさんは、遠くから来てくれたことと、
歌ってもらえたことの感謝を私に言ってくれた。

だけど、感謝したいのは私の方だ。

私の歌にはまだまだ足りないものがあることを痛感した。
いったい何がどんなふうに足りないのか、見当もつかないのだが、それを探し
ながらまた歌い続けて行きたい。

施設に勤めた30年前も、そして今も障害のある人達からいろんなことを教わ
っている。

その謙虚な気持ちを失っていないことだけは、自分を褒めてやりたい。